

# 「おうみじょ…ウフ」事業【愛荘町】

## 地域の実情と課題

滋賀県が実施した『平成26年度男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査』の結果、結婚・出産・育児期の女性の就業については、家事・育児等の負担から男性と比較し、厳しい現実にある。しかし、実際には就業を希望する女性が多いことから、在宅勤務など女性の多様な働き方を普及させる必要がある。

## 目的・目標

「働きたいけど働けない」という悩みを持つ女性をステップアップさせ、将来自宅等を工房にして生産するなど、女性の起業に結びつけることを目的とする。

(数値目標)年間平均販売実績 5~10万円/人→倍増

起業(販売実績100万以上)2人

(達成年度)平成29年度末

## 事業の特徴

当町では、近江上布伝統産業会館を拠点とし、洋裁等に趣味や関心のある女性が、近江の麻布を材料に麻の特性を活かした衣料や小物を製作して、ショップで販売するなど、家事・育児等と両立する取り組みが徐々に注目を浴びている。

そこで、「趣味を活かしたいが、どうすればいいかわからない」という女性をターゲットに、オリジナルデザインの麻布の染織生産、縫製等技術の向上、さらに消費者ニーズの把握を図る。

## 連携団体

滋賀県麻織物工業協同組合と協働により実施。

滋賀県麻織物工業協同組合は、近江麻布振興を目的とする町内唯一の団体である。

## 事業の効果

麻布の生産や麻布を使用した商品開発、また染色や裁縫の技術向上講習や消費者ニーズを学ぶことで、仕事と家庭を両立できる環境整備を進められ、さらに女性の自立を促す醸成につながることができた。

## 今後の課題

起業するには1年という短期間では難しいが、当事業と同様の取り組みにより麻製品の生産で起業した女性がいるため、今後も引き続いて事業の効果把握し、関係機関との協働により、麻布の販売を促進し、女性の起業につなげる。

# 事業の概要

近江上布は、琵琶湖の肥沃で多湿な風土で生まれ、洗練された細く上質な麻糸を使って高い技術で丁寧に織り上げた麻織物です。近江商人は、他国へ行くとき麻布を持って行って売り、帰りにはその地の商品を買ってきて往復商売をしたので、全国に近江上布が広がっていき、江戸時代には、彦根藩が副業対策として指導したため、全戸といってよいほどの家が上布を織り、最盛期には100万反生産の記録が残っています。

時代の流れや呉服の衰退とともに、徐々に生産は減少していきましたが、地域の女性の力で、伝統産業に新しい息吹を吹き込み、「女性の活躍」と「伝統産業」の融合により地域に新しい価値をもたらすことを目指します。

〔現在の女性の声〕

- 家事・育児等で働けない
- 趣味を活かしたい
- 活躍の場がほしい



仕事と家庭の両立  
働きがい・生きがい  
起業意欲の増進  
デザインの開発

「女性の活躍推進」  
と  
「伝統産業振興」



仕事と家庭の両立  
生きがい・働きがい  
新たな市場開拓  
対価を得る喜び



近江の麻布を活かした起業支援  
就業意欲の創出  
消費者ニーズの把握



地域の伝統産業である  
「近江上布」  
国の伝統工芸品認定（昭和52年）

連携



愛荘町役場



近江上布伝統産業会館

〔未来の女性の声〕  
○家庭も仕事も充実  
○地域のために活躍してます